

銅が彩る癒しの空間

建築内外装材・硫化処理銅板



400mm角、0.35mm厚の銅製
タイル150枚が使用されてい
る。硫化処理により表面は
一枚ごとに違う表情を持つ



「膳丸」
(東京・池袋) おばんざい、本格焼酎専門

人気を呼ぶ、 落ち着いた食空間

気の合う仲間と、ゆったり料理やお酒を楽しむ。さまざまな形態の飲食店が存在するなか、落ち着いた空間を提供する飲食店が人気だ。最近では、ごく親しい人と少人数で外食をとる人が増えており、にぎやかさよりも、個室感覚の、落ち着いた空間が好まれる傾向にある。そのため店舗デザインを凝らし、人々がほっと落ち着ける個性的な空間演出に力を注いでいる店が増えている。

なかでもひとときわ落ち着きのある空間を、銅で演出している店がある。「膳丸」(東京・池袋) おばんざい、本格焼酎専門)は、店の外壁が銅で覆われている。400mm角の銅製タイル150枚が壁面に並び、圧倒的な存在感で、店のファサードが形成されている。銅の表面は硫化処理が施され、落ち着きのある重厚な印象を醸し出している。



「季の膳」
(東京・新宿) 季節の料理、地酒専門
1.2mm厚の銅の一枚板が使用されている。一枚板の様子は、全体の模様を配置を見ながら仕上げられた



「鳥どり」
(東京・内幸町) 串焼き、鶏料理専門
職人の仕事が見えるオープンキッチンのカウンター上部には、0.35mm厚の銅製パネルが配されている



真鍮板(左)銅板(中) 硫化処理(いぶし)をほどこした銅板(右)



つるりとした表面の銅コイルが、硫化処理にかけられ、陰影深い表情がつけられる



川淵雅道専務
中国語が堪能で、直接海外の建材商社との交渉にあたることも。

「鳥どり」(東京・内幸町 串焼き、鶏料理専門)には、店内のメインとなるカウンター上部に銅製パネルが配されている。店内は全室掘りこたつ、畳で統一されており、和の空間に間接照明に照らされた銅が、まるで我が家に帰ってきたような、安らげる雰囲気を作り出している。

「季の膳」(東京・新宿 季節の料理、地酒専門)には、店の看板に銅の一枚板が使用されている。この看板は入口付近の階段踊り場スペースに設置されており、手で触られることも想定され、ザラザラとした表面に仕上げられている。また、店名のロゴはレーザー加工により文字が抜かれており、間接照明により立体的な印象で、あたたかく、陰影のあるイメージを与えている。

これらの店では、特に銅の表面に、陰影が美しい硫化処理が施され、店の雰囲気を作り出す効果的な内、外装材として使用されている。最近では、この硫化処理を施した銅板を店舗に使用するケースが増えている。実際に、店に訪れたお客さんも、銅の内外装を見て立ち止まったり、「これはなにまでできているのですか」とたずねたり、店主もインパクト

最近では、さらに本物の質感が欲しいと、これまで「ノスト」を優先し、鍍塗装の金属板を使用していた設計者が、硫化処理の銅板を求めるケースが目立ってきている。薬品で金属表面に模様をつけられる硫

「最近、店舗設計者の多くが使う言葉が『癒しの空間』です。人々がほっとつらげたり、和めたり、そんな店の雰囲気を設計者はめざしているようです。銅の質感は温かみや落ち着きがあります。アルミニウムなどは、どうしても軽い。安っぽいという印象があるようですが、銅は重厚感や高級感が漂い、さらに見た目にインパクトがあると思います。そういう銅の良さを店に取り入れたいと、初めから銅を指定して依頼がきます。」

さまざまな種類の内外装材があるなか、なぜ銅材が選ばれるのか。東京エンボス工業(株)川淵裕滋常務にその理由をたずねた。

「最近、店舗設計者の多くが使う言葉が『癒しの空間』です。人々がほっとつらげたり、和めたり、そんな店の雰囲気を設計者はめざしているようです。銅の質感は温かみや落ち着きがあります。アルミニウムなどは、どうしても軽い。安っぽいという印象があるようですが、銅は重厚感や高級感が漂い、さらに見た目にインパクトがあると思います。そういう銅の良さを店に取り入れたいと、初めから銅を指定して依頼がきます。」

「製品はいつか飽きられてしまう時が来る。常に新しいものを作っていくかなければ」と言う。

高い技術をベースに、新しい製品が生まれている。技術力を生かしながら、自由な発想で、銅建材はいつそう魅力的に磨かれていくよつだ。



雄と雌のエンボスロールでプレスされ、精度の高い金属サイディング等が作られる

トが与えられると喜んでくれるよつだ。

この硫化処理を施した内外装材を手がける東京エンボス工業(株)に話をうかがった。



川淵裕滋常務
現役ミュージシャン(ドラマー)でもあり、バイク、写真、動物が好きななど多趣味を生かし、新しい製品づくりにチャレンジしている。阪神ファンは筋金入り。

癒しの空間をもとめて

自由な発想で生まれる新しい銅製品

「独特の風合いが人々のデザイン心をくすぐり、新しい使われ方が生まれているのでしょつ」

一度薬品につけてからブラッシングを行う方法により、深い味わいを持つ『いぶし』が完成した。最近では、大手DIYを通じて、一般ユーザーがいぶしを使用する例も増えている。

「一度薬品につけてからブラッシングを行う方法により、深い味わいを持つ『いぶし』が完成した。最近では、大手DIYを通じて、一般ユーザーがいぶしを使用する例も増えている。」

「過日、展示会に出品しましたが、多くの反響がありました。お客さんがどこに注目しているのかわかり、次にやりたいことが見えてきました」

「製品はいつか飽きられてしまう時が来る。常に新しいものを作っていくかなければ」と言う。

「最近、店舗設計者の多くが使う言葉が『癒しの空間』です。人々がほっとつらげたり、和めたり、そんな店の雰囲気を設計者はめざしているようです。銅の質感は温かみや落ち着きがあります。アルミニウムなどは、どうしても軽い。安っぽいという印象があるようですが、銅は重厚感や高級感が漂い、さらに見た目にインパクトがあると思います。そういう銅の良さを店に取り入れたいと、初めから銅を指定して依頼がきます。」

「最近、店舗設計者の多くが使う言葉が『癒しの空間』です。人々がほっとつらげたり、和めたり、そんな店の雰囲気を設計者はめざしているようです。銅の質感は温かみや落ち着きがあります。アルミニウムなどは、どうしても軽い。安っぽいという印象があるようですが、銅は重厚感や高級感が漂い、さらに見た目にインパクトがあると思います。そういう銅の良さを店に取り入れたいと、初めから銅を指定して依頼がきます。」

「最近、店舗設計者の多くが使う言葉が『癒しの空間』です。人々がほっとつらげたり、和めたり、そんな店の雰囲気を設計者はめざしているようです。銅の質感は温かみや落ち着きがあります。アルミニウムなどは、どうしても軽い。安っぽいという印象があるようですが、銅は重厚感や高級感が漂い、さらに見た目にインパクトがあると思います。そういう銅の良さを店に取り入れたいと、初めから銅を指定して依頼がきます。」

「最近、店舗設計者の多くが使う言葉が『癒しの空間』です。人々がほっとつらげたり、和めたり、そんな店の雰囲気を設計者はめざしているようです。銅の質感は温かみや落ち着きがあります。アルミニウムなどは、どうしても軽い。安っぽいという印象があるようですが、銅は重厚感や高級感が漂い、さらに見た目にインパクトがあると思います。そういう銅の良さを店に取り入れたいと、初めから銅を指定して依頼がきます。」

「最近、店舗設計者の多くが使う言葉が『癒しの空間』です。人々がほっとつらげたり、和めたり、そんな店の雰囲気を設計者はめざしているようです。銅の質感は温かみや落ち着きがあります。アルミニウムなどは、どうしても軽い。安っぽいという印象があるようですが、銅は重厚感や高級感が漂い、さらに見た目にインパクトがあると思います。そういう銅の良さを店に取り入れたいと、初めから銅を指定して依頼がきます。」

「最近、店舗設計者の多くが使う言葉が『癒しの空間』です。人々がほっとつらげたり、和めたり、そんな店の雰囲気を設計者はめざしているようです。銅の質感は温かみや落ち着きがあります。アルミニウムなどは、どうしても軽い。安っぽいという印象があるようですが、銅は重厚感や高級感が漂い、さらに見た目にインパクトがあると思います。そういう銅の良さを店に取り入れたいと、初めから銅を指定して依頼がきます。」